



འབྲུག་རྒྱལ་ཁབ་

# ブータン便り

2018年12月19日  
第4号

クズザンポーラ！昨日ティンプーに初雪が降りました。ブータンでは初雪を観測した日が休日になります。街中では、ティンプーっ子が雪だるまを作ったり、雪玉を投げ合ったりと、楽しんでいる姿を目にしました。この Happy Snowfall Day も国民総幸福量の増大に一役買っているかもしれませんね。

さて、アパート暮らしと配属先での勤務を始めてからちょうど1カ月が経ちました。必要なものを買集めたり、帰国隊員や専門家から譲ってもらったりしながら、生活環境もだいぶ整いました。今号では私の生活環境や職場の様子をお伝えします。

## ティンプー生活圏



首都ティンプーは北から南に流れるティンプー・チュ(川)沿いに街が形成されています。10万人が暮らす都会といっても、政府機関や銀行、郵便局、商店など、主要なものはほとんどが歩いて行ける距離にあります。

街の中心部というか基点となるのが交通整理の交差点。ここでは交通警察が四方から来る車の通行をコントロールしています。ブータンにはティンプーをはじめ全国どこにも信号機

がありません。近年、車両登録台数がどんどん増えているため、信号機の導入を検討しているようですが、実現は当分先のことになりそうです。

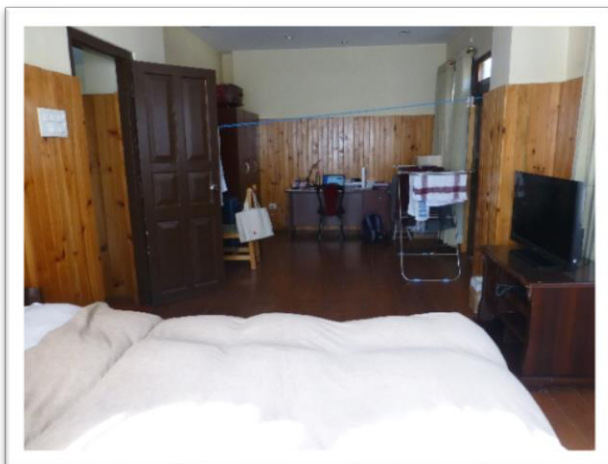
私のアパートは交通整理の交差点から歩いて 10 分ぐらいで着きます。アパートから職場の政府観光局までが約 10 分、市民の台所であるサブジ・バザール（野菜市場）までも 10 分強と、とても便利な所に住んでいます。JICA 事務所や隊員ドミトリーも徒歩圏内です。

## アパート

2 年間の海外生活を送る上で、居住環境はとても大事な要素です。設備面（水、電気、ガス、暖房、給湯）、安全面（防犯、錠前、狂犬）、場所（アクセスしやすさ、高低差）、大家とのコミュニケーションの取りやすさ等、考慮すべきことはたくさんあります。先輩隊員に聞くと、水が出ない、ギザ（給湯器）が壊れている、頻繁に停電する、近所の犬に咬まれた、といった苦労話が尽きません。

私は配属先が紹介してくれた候補を 3 か所見て回り、今のアパートに決めました。3 階の東南角、日当たりが良く、日中は暖かいです。一通りの家具や電化製品、調理器具、食器は備え付きで、設備面、安全面も今のところ問題なし。また、大家さんが上の階に住んでいて、困ったことがあるとすぐに相談できるので、非常に恵まれた環境に住ませてもらっています。

家賃は JICA から支給されている住居費で支払っています。私たちシニア海外ボランティアは青年海外協力隊よりも住居費の限度額が大きいので、このような恵まれた環境に住むことができます。現在の青年海外協力隊の住居費限度額ではこのアパートの家賃は払えません。一方で、シニア海外ボランティアに対する優遇は 2018 年度派遣隊次までとなるそうです。2019 年度から派遣される JICA 海外協力隊は、青年もシニアも現地生活費・住居費が同額になるという話を聞きました。今後、海外協力隊の応募を検討されている方は詳細を JICA にご照会ください。



## ブータン政府観光局 (TCB)

ブータン政府観光局 (Tourism Council of Bhutan、以降「TCB」) が私の配属先です。TCB は以前は経済省の一部門でしたが、2008 年に独立機関となりました。ティンパー・チュ (川) 近くの TARAYANA 財団の建物内にオフィスがあります。スタッフは全部で 40 人ほど。私は Planning and Research Section (計画調査課) に所属し、ここで観光統計の業務を支援することになっています。

ブータンは官公庁をはじめ、学校、銀行、郵便局など、公務中は伝統衣装のゴ (男性用) またはキラ (女性用) の着用が義務付けられています。ここ TCB も玄関を入ったところに、ドレスコードを促す表示があります。ゴやキラを持たない外国人はスーツでも構いませんが、当地の文化を尊重してできるだけゴを着てみようと思います。

建物の中はとても寒いです。なので、写真のようにデスクの下には一人一つずつヒーターが置かれていて、暖をとることができます。特に、ゴは裾を膝の高さまでたくし上げて着るので足元がスースーするから、ヒーターはなくてはならない存在です。停電のときは、オフィス内が寒いので外に出て日光浴をします。外の方がポカポカして暖かいのです。

